

# オーケストラアンサンブル金沢

スペシャルコンサート

## いま、届けたいクラシック!

OEK、再始動! オーケストラの生演奏で届けたい、感謝の気持ち

Orchestra Ensemble Kanazawa

Special Concert

Sunday 26 July 2020, at 12:00 and 17:00

Ishikawa Ongakudo Concert Hall

2020年7月26日(日)

昼の部 12:00開演 (11:00開場 13:00終演予定)

夕方の部 17:00開演 (16:00開場 18:00終演予定)

石川県立音楽堂コンサートホール

安心・安全にコンサートをお楽しみいただくために、OEKと音楽堂は、感染症対策に取り組みます。

### 《ご来館の皆様へ》

- 体調不良(発熱や倦怠感など)および感染症陽性の方との濃厚接触がある方は、来場をお控えください。
  - 入場時に検温いたします。発熱や風邪の症状がある方の入場はご遠慮いただきます。
  - マスクの常時着用と、館内設置の消毒液や手洗いなどで、こまめな手指の消毒をお願いいたします。
  - 混雑を避けるため、事前のチケット購入をお勧めします。
  - 入場・退場時の混雑を避けるため、分散にご協力ください。
  - カフェコンチェルト及び館内のクローク、貸出ブランケット、冷水器はご利用いただけません。
  - 開演中は客席扉を開放いたします。
  - お客様同士の大声の会話や、プラボー等の掛け声等はお控えください。
  - サイン会、楽屋への面会、出入り待ち、出演者への贈物はご遠慮ください。
  - 館内にごみ箱は設置してありませんので、ゴミはご自身でお持ち帰りください。
- その他、感染防止対策へのご協力をお願いいたします。

主催:(公財)石川県音楽文化振興事業団

オンライン・アンケートを実施します WEBから皆様の声をお寄せください。QRコードを読み取りください。





ペルト  
A.Pärt

カントウス (ベンジャミン・ブリテンへの追悼歌)  
Cantus in Memory of Benjamin Britten

チャイコフスキー  
P.I.Tchaikovsky

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35\*  
Violin Concerto in D major, op.35\*

|                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 第1楽章 アレグロ・モデラート     | Allegro moderato    |
| 第2楽章 カンツォネッタ アンダンテ  | Canzonetta Andante  |
| 第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチッシモ | Allegro vivacissimo |

プロコフィエフ  
S.Prokofiev

古典交響曲 op.25  
Classical Symphony, op.25

|                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| 第1楽章 アレグロ                | Allegro                     |
| 第2楽章 ラルゲット               | Larghetto                   |
| 第3楽章 ガヴォッタ ノン・トロppo・アレグロ | Gavotte: Non troppo allegro |
| 第3楽章 モルト・ヴィヴァーチェ         | Molto vivace                |

※休憩はございません  
no intermission



指揮 田中祐子  
Conductor Yuko Tanaka

ヴァイオリン 神尾真由子\*  
Violin Mayuko Kamio\*

管弦楽 オーケストラ・アンサンブル金沢  
Orchestra Orchestra Ensemble Kanazawa





文:飯尾洋一(音楽ジャーナリスト)

長引くウイルス禍のなか、ついにOEKが再始動することとなった。座席数を制限した休憩なしの約1時間のコンサートは、現時点の日本のオーケストラにおけるスタンダード仕様とも言うべきものだ。まずは公演の再開を喜びたい。

本日はベルトによる追悼の音楽で幕を開け、ソリストの華麗な妙技が発揮されるチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲と、若き日のプロコフィエフの清新な感性が光る「古典交響曲」が演奏される。祈りから、希望へ。そんなストーリーがプログラムから透けて見える。

## ベルト：カントゥス(ベンジャミン・ブリテンへの追悼歌)

アルヴォ・ベルト(1935～)はエストニア生まれの現代の作曲家。グレゴリオ聖歌や中世の聖歌など、古い時代の教会音楽から影響を受け、簡潔で静謐な祈りの音楽を生み出してきた。1976年、ベルトはイギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテンの訃報を耳にする。ブリテンの音楽に共感を寄せ、いずれ面会したいと思っていたベルトは、ブリテンへの追悼歌としてこの作品を書いた。鐘の音に弦楽器による哀切な主題が重なり合う。

## チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35

1878年、スイスで静養するピョートル・チャイコフスキーのもとに、友人のヴァイオリニストがラロの「スペイン交響曲」を持参して訪れた。これに触発されてか、チャイコフスキーは新たにヴァイオリン協奏曲の作曲にとりかかる。わずか12日間でスケッチを書き上げ、一か月足らずでスコアを完成させるという速筆ぶりは、作曲者の創作意欲の高まりを雄弁に物語る。

第1楽章 アレグロ・モデラート～モデラート・アッサイ

ドラマティックな序奏に続いて、独奏ヴァイオリンが悠然と登場する。

第2楽章 カントゥオネッタ、アンダンテ カントゥオネッタとは「小さな歌」の意。

第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチッシモ 躍動感あふれる熱狂的なクライマックスを築く。

## プロコフィエフ：古典交響曲 ニ長調 op.25

ソ連の作曲家セルゲイ・プロコフィエフ(1891～1953)と言えば、急進的で大胆な作風が特徴だが、この古典交響曲はその例外。あえてハイドンやモーツァルト流の明快で古典的なスタイルが踏襲されている。古いフォーマットに20世紀の感性を注ぎ込んだ温故知新の交響曲だ。

第1楽章 アレグロ 弾けるような第1主題にキュートな第2主題が続く。

第2楽章 ラルゲット のびやかで息の長い旋律が奏でられる。

第3楽章 ガヴォット バロック風の典雅な古典舞曲。

第4楽章 モルト・ヴィヴァーチェ 疾走感とユーモアが融合した鮮烈なフィナーレ。





## 田中祐子(指揮)

Yuko Tanaka, Conductor

2018年4月、オーケストラ・アンサンブル金沢指揮者に就任。平成30年度(第29回)五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。受賞に伴い2019年3月末より海外研修。フランスのボルドー、リヨンを経て、現在はパリに在住。エコールノルマル音楽院のオーケストラ指揮科・高等ディプロム課程にてドミニク・ルイス、ジュリアン・マスモンデ氏に師事しさらなる研鑽を続けている。2020年度ローム ミュージック ファンデーション奨学生。東京藝術大学大学院指揮科修士課程首席修了。指揮を尾高忠明、広上淳一、高関健、汐澤安彦の各氏に師事。2012年より渡独し主にベルリンとミュンヘンにて研鑽を積む。東京国際コンクール「指揮」入選、プザンソン国際指揮者コンクール、ショルティ国際指揮者コンクールのセミファイナリスト。NHK-Eテレ「らららクラシック」やNHK-FM「名曲アルバム」、日テレ「読響シンフォニックライブ」、テレ朝「題名のない音楽会」等、メディア出演多数。



## 神尾真由子(ヴァイオリン)

Mayuko Kamio, Violin

4歳よりヴァイオリンをはじめ。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた。これまで、国内の主要オーケストラはもとより、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ロシア・ナショナル・フィルハーモニー交響楽団、などと共演。近年では、ズービン・メータ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団と南米ツアー、ルドヴィク・モルロー指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団とイスラエルツアーを行った。RCA Red Sealレーベルより「パガニーニ：24のカプリース」「チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲」をリリースしており、2012年秋にはフランク、ブラームス、シュトラウスを収めたCD「ロマンティック・ソナタ」をリリースした。

これまで里屋智佳子、小栗まち絵、工藤千博、原田幸一郎、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫、ザハール・ブロン各氏に師事。楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス1731年製作「Rubinoff」を使用している。大阪府知事賞、京都府知事賞、第13回出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオークラ音楽賞はじめ数々の賞を受賞。

## オーケストラ・アンサンブル金沢

Orchestra Ensemble Kanazawa

1988年、岩城宏之が創設音楽監督(永久名誉音楽監督)を務め、多くの外国人を含む40名からなる日本最初のプロの室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。石川県立音楽堂を本拠地とし、北陸、東京、大阪、名古屋での定期公演など年間約100公演を行っている。シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノフェスティバルなど、音楽祭からの招聘を含む20度の海外公演を実施。設立時よりコンポーザー・イン・レジデンス(現コンポーザー・オブ・ザ・イヤー)制を実施、多くの委嘱作品を初演、CD化している。オーケストラ育成・普及活動にも積極的に取り組んでいる。ドイツグラモフォン、ワーナーミュージックジャパン、エイベックスなどメジャーレーベルより90枚を超えるCDを発売。07年より18年3月まで、井上道義が音楽監督を務め、18年9月よりマルク・ミンコフスキが芸術監督を務める。

